

二〇一二年四月号

一 二〇一〇年度総会について

二〇一〇年四月二十五日(日)に光市島田の光地域づくり支援センターで総会を行いました。総会で二〇〇九年度の活動報告と会計報告、二〇一〇年度の活動等について協議を行いました。島田川河口の砂を使って谷間を埋め、宅地造成と共に行う虹ヶ丘のせとかぜ線道路計画や、島田川流域河川の土砂堆積や川のゴミ散乱状態、そして三島橋掛け替え(二〇一二年終了予定)と三島温泉の立て替えなどについて意見が出されました。温泉については、行政の提示する大きな予算をつぎ込んだ大規模なものに対し、従来の安くて使いよかつた施設との対比が著しく、高すぎて住民が使いづらい、税金の無駄遣い等の意見が出されました。さらに、島田川の清掃を会で行うことなどについての意見も出されました。

第二部では山口県のそして周東町の宝物である玖珂隕石について、本会員でもあり、風子会の代表でもある清水秀登氏に解説をいただき、その後毛利治郎氏による玖珂隕石の紙芝居を堪能。たかが紙芝居ではありません、この隕石の価値を広く知らしめる内容で、さらに絵も素晴らしく、語りも上手で、大人も十分に満足するものでした。もともと多くの人に見ていただきたいのです。そのあと、「ミュージシャンである毛利氏に「悔いのない人生」と題し、仕事をやめてミュージシャンとなつて金はないが人生の充実を求める今の生き方を語っていただきました。そして、歌です。『見の空』・『原風景』など全て自作の、自然と人と愛を讃える歌、心に響きました。沁みました。なつかしくもあり、目頭に液体も少ししみでてきます。心が優しくなつたような満足の時間を過ごしました。

ました。

* 玖珂隕石：昭和十三年島田川の支流東川に沿つた周東町川上の小畑で、農道拡張中に発見。鉄とニッケルを主成分とする金属だけで出来た鉄隕石で、大変に貴重であり、そして五、六キロもの大きな隕石です。現在、本体は国立科学博物館にあり、残念ながら山口県には県立博物館に小さな切片と複製のみが残っています。*

第三部は島田川流域ハイキングです。午後、熊毛八代の烏帽子岳山系の赤松ヶ平まで春の息吹を感じつつのハイキングとなりました。島田川流域最高峰の六九七メートル烏帽子岳からつながる標高六百メートル台の山地は春はまだ始まったばかりで、山菜もほんの出始め、花もまだ少なめ。しかし、二十一名の参加者は、満足しました。展望も素晴らしいし、三角点も踏んだし、新緑も目にしみました。家には味わえないものです、野に出てこそ味わえる春の息吹でした。

さて、総会で世話人会から、会の高齢化も進み、広域水道などの問題も一応の結果が出た今、毎年の総会開催を見直し、必要に応じて総会を開催、取りあえず二〇一一年総会を行わないという提案が出され、出席者の了解を得ることも出来ました。ただし、ハイキングや川遊びなどの諸行事は今まで同様に開催していきたいと思つています。ご不満もありませんし、ご理解のほどをお願いします。

二 二〇一〇年夏の川遊び

八月八日(日)、光市浅江の島田川河口域で、第十一回目の川遊びを行いました。光市のみならず、徳山や平生・熊毛・田布施、さらには広島県からの参加もあり、総勢四十名もの参加がありました。

本会員でもあり、画家として有名なだけでなく、今や島田川にとどまらず県内外の川の魚や多くの生き物の研究者としても名高い奥田賢吾講師の指導のもと、子供から大人まで河口の生き物を探し回り、直に触れ、その豊かさに驚きました。モクズガニやスナガニやいろいろの種類のカニが砂浜に干潟に葦原に生息しています。魚も多く、ゴリの仲間数種、そして珍しいヨウジウオまで発見。子供も満足しましたが、大人も大喜びで、もつと川に海に入りたいたい、もつと生き物や川そのものに触れたいとの声寄せられました。

三 二〇一〇年秋の親睦旅行

十月二十三日(土)から二十四日(日)にかけて、これで七回目となる、県外の水辺や自然を巡る親睦旅行を行いました。例年夏に行つていましたが、今年は秋に行いました。十八名の参加者は、早朝六時過ぎに光を出発、柳井港からフェリーに乗り、十時四十分には四国愛媛の三津浜港に到着。四国路を伊予の国から宇和島へ南下。宇和島の港にある道の駅「きさいや広場」で昼食。ウニ丼を堪能する人あり、南国の産物に躍り上がる人有りでした。この後、宇和島城を見学し、若干の迷走後、四国山地にむけて東進。途中、四万十川支流広見川沿いに立つ松野町の「おさかな館」に立ち寄りませす。ここでお目当てのアカメに会うことが出来ました。四万十川河口に住むまぼろしの巨大魚です。アカメ以外にも南米の巨大淡水魚ピラルクや多くの水生生物が見られます。さらに東進し、愛媛県から高知県に入るとそこは広大な四万十川中流域でした。川に沿って北上し、四万十町(旧十和村)の十和温泉に到着。温泉の後は、豪華な四万十川の幸でした。天然アユの塩焼きはもちろん、モクズガニ・テナガエビ・鮎寿司・あおさ海苔などの天ぷら、そして何より美味だったのがモクズガニ



①2010. 4. 25総会



①玖珂隕石紙芝居



①毛利治郎氏熱唱



②2010. 4. 25赤松ヶ平にて



③2010. 8. 8河口で川遊び



③干潟にて



③参加者



④2010. 10. 23おさかな館でアガ

の蟹みそのみそ汁、この旨いこと、こんなに美味しいとは。翌朝の朝食もアユと宿自慢の出来たて大豆腐を堪能。二十四日はあいにくの雨交じりでしたが、四万十「とおおの道の駅」でさつそく天ぷら用にあおさ海苔や、今年は豊作という松茸など川と山の幸を買い込みました。今度は川沿いに南下します。名物の沈下橋（ちなみに島田川や錦川でも見られますが、何故か山口県のは名物にはなっていないせんね）に立ち寄り、漁をする人と会話。さらに広い河原に出て四万十川に触れ、河原にある色とりどりの石について清水会員の説明、これが太平洋からプレートに乗って運ばれてきたチャートなりと。こうして川に触れつつ南下し、太平洋に流れ出す河口域に達したときにはついに時間オーバーとなり、下流域のとんぼ館を借しみつつ帰路を急ぐことになりました。宿毛から再び愛媛県に入り、愛南町の宇和海展望タワーに立ち寄ります。ここからの宇和海の展望のいいことつたら、来た甲斐あります。さらに第二次大戦の遺物紫電改を見、ようやく昼食地に到着。二日目の日程は決まっておらず、天候と時間と、そして行き当たりばつたりの行程でしたが、それもまた一興。昼食は、旅の終わりを惜しみつつ、太平洋のうつぼのたたき・足袋エビ定食など珍味を堪能。さて、このあとは予約のフェリー時間との戦い。旅行参加者でありながら、自らマイクロバスのハンドルをにぎるY氏の絶妙なハンドルで、高速を、狭い伊予の市街地を吹っ飛ばし、五時十分発のフェリーに五時五分に到着。光に帰ってきたのは八時過ぎでした。

*四万十川沿いの国道や県道の悪いこと。これが国道かと言うほど、狭く、すれ違えるのかなと思ふような箇所がいくつも。そして曲がりくねり、地図で思う以上に時間がかかってしまいました。山口県の道路は、国道は言うに及ばず、県道や市

道、農道や林道でもこれら以上に広がってまっすぐで、立派です。山口県民であることを嬉しくも思いますが、はたしてただ喜んでいいのでしょうか。県内のある箇所、土木王国山口を守ろう、という土木建築関係の人びとが立てた看板を見たことがあります。何故、山口県の道路は他県に比べて異常に良く、そのうえさらに良くするべく工事が相次いでいるのでしょうか。他県の住民の負担と税金で我々の道が良くなっているのだとしたら、もう結構です。これ以上山口県だけが良い道で暮らすのはご免です、参加者一同の気持ちです。

四 二〇一〇年秋の島田川源流ハイキング

晩秋の十一月二十七日（土）に第十回目になる島田川源流ハイキングをもちました。熊毛呼坂の松舟に集合したのは三十一名。会員の清水氏をはじめとする地域の人びとが草刈りをして道を整えていただいた、島田川水系笠野川のさらに支流になる中村川を遡ります。最上流部は手洗川という名になっており、親水公園として整備されています。民家のイヌマキ巨木や、親水公園の整備された竹林、イズモアザミなど晩秋の花、ウリハダカエデやタカノツメなどの紅葉・黄葉を愛でつつ源流に迫ります。が、草刈りをしていただいたにもかかわらず、野の草の生長は凄まじく、やがて道は草に被われ、目的の関屋峠を断念し、途中に源流碑を建立しました。恒例になりましたが、全員で源流碑に一打ちずつ槌を打ちます。写真撮影後Uターンし、整備されトイレと駐車場の完備した親水公園で昼食。午後は松舟山（地元では鉢ヶ峰と呼ばれているそうです）を目指します。急登ひとのぼりで三角点山頂に到達。その後急坂を転がるように下り、清水氏宅の裏山の紅葉を愛でて駐車地に戻り終了となりました。

五 事務局より

①通信の発行が大変に遅れ、一年ぶりとなってしまいました。申し訳ありません、全て事務局の怠慢につきまます。以後、気を引き締めて頑張りまます。

②広域水道計画は中止となり、会の目的も半ばは達成することが出来ました。しかし、周東町に建設された中山川ダムの負債は現実のものとして流域住民にのしかかることとなりました。負債償還のため、光市は水道料金的大幅値上げを実施することとなり、下水道料金の値上げもからみ、流域住民の生活を直撃しています。広域水道実施に比べれば被害は小さいのですが、やはり計画の段階で止められなかった後悔は残りました。

③総会でも議論されましたが、三島温泉の問題が上手く解決されますように。従来の施設は、サウナや食堂や様々な設備はないものの、安価で、毎日のように湯に浸かり、湯槽で皆と談笑し、疲れをとつていた義母を思い出します。近代的で様々な快適な設備もいいものです。個人的にはそういう施設によく行っています。しかし、安価で、手軽に使えることは本当に重要なことです。市民の税金もあまり使わず、皆に負担の少ない施設にして欲しいものです。

次の口座に会費納入をお願いします。

郵便振り込み口座

口座番号〇一三〇〇一六一三二四

口座加入者名は

「島田川流域の自然と水を守る会」です。



④2010. 10. 23宿にて



④テナガエビも美味しそう



④四万十川のアユ



⑤10. 24四万十川の沈下橋にて



⑤四万十旅行参加者



⑥2010. 11. 27源流ハイク



⑥中村川源流ハイキング参加者



⑥スズメバチ巣にひやり